

第4章

計画の実現に取り組むために

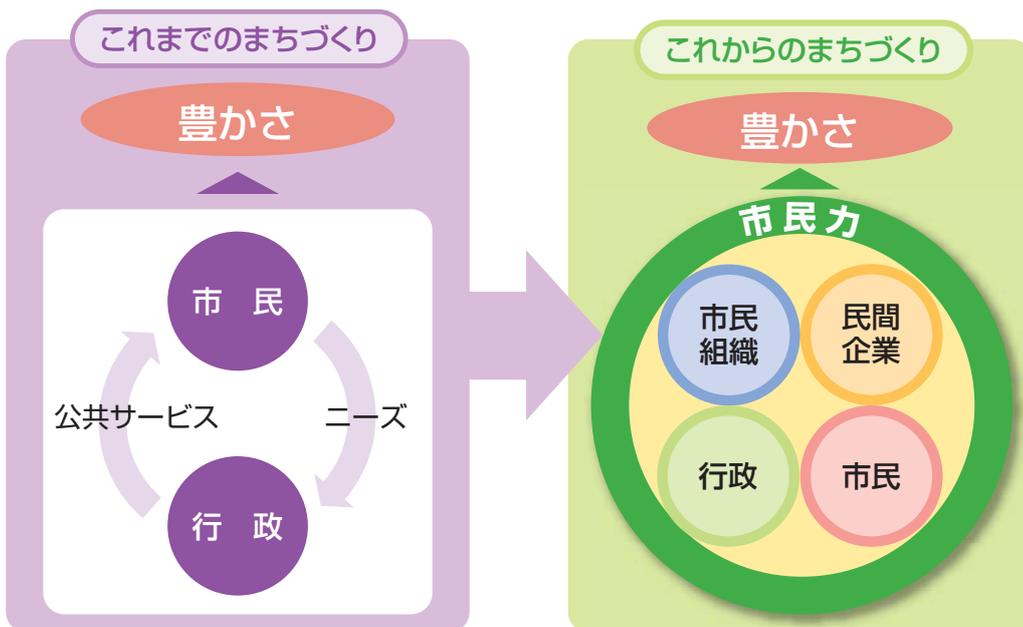
1. 「地域内分権」で「市民力」を発揮する 「三豊市型まちづくり」の推進

(1) 三豊市型まちづくりとは

これまでのまちづくりは、行政が公共サービスを提供し、市民はそのサービスを受けて“豊かさ”を得るといった構図のもとに展開してきました。しかし、多様化・複雑化する市民ニーズに対して、厳しい財政状況の下、将来にわたって必要な行政サービスを提供していくためには、行政だけでは対応が困難な時代を迎えています。

一方、近年、市民公益活動団体^{※13}や民間企業などによる社会貢献活動への参加意欲が高まりをみせるほか、市民の間にも自助・共助の精神のもと、地域の様々な課題を解決していこうという意識が広がっています。

そこで、これまで行政が担ってきた公共サービスのうち、「市民ができることは市民が」「民間企業ができることは民間企業が」という本市が提唱する「地域内分権」の基本的な考え方のもと、それぞれの立場から知恵や行動力など、三豊を愛する気持ちに満ちあふれた「市民力」という無限の力を発揮し、本計画の各分野に掲げた成果指標の達成に向け、常に評価・改善に取り組む「三豊市型まちづくり」を進め、本市の将来像「豊かさ」をみんなで育む市民力都市・三豊を実現します。



※13 市民公益活動団体…市民が自主的に参加し、自発的で主体的に活動を行う営利を目的としない社会利益の増進に寄与する団体。NPO法人、ボランティア団体、コミュニティ組織など

(2) まちづくりの主役（市民・市民組織・民間企業・行政）の役割

まちづくりの主役である市民・市民組織・民間企業・行政が、これまでの役割を見直し、互いの特性をふまえた上で、地域内分権によってこれから担うべき新しい役割について共通の認識を持つ必要があります。

●市民の担う役割

①市民一人ひとりの役割

まちづくりにおいて、市民は2つの役割を持っています。公的なサービスの「受け手」であり、市政に発言する権利を持つ、居住地域の諸活動の「担い手」でもあります。

これからの市民には、行政の「受け手」にとどまらず、市政に参画し、諸活動の「担い手」として自らできることを考え、自ら行動することが求められています。自らの生活する地域をよりよいものにするために、自治活動や市民公益活動に対する理解を深め、参画・行動していくことが必要です。

②地域の自治組織が担う役割

自治会をはじめとする地域の自治組織は、生活に密着した様々な課題に市民一体となって取り組み、住民自治、相互扶助などにおいて大きな役割を果たしています。

しかし、近年、地域を取り巻く環境が変化する中で、自治組織もまた変化への対応を迫られています。

これからの自治組織には、より多くの市民が手を取り合って主体的に運営するとともに、市民公益活動団体等と連携して活動するなど、時代のニーズに対応した、新しい活動が求められています。

●市民組織（市民公益活動団体）の担う役割

新たな社会貢献活動の担い手として期待される市民公益活動団体の役割は、主に行政や民間企業にはできない市民自身の視点によるきめの細かい公益サービスを提供することです。また、その活動を通じて、多様な知識や経験を持つ市民の活躍と雇用の場を生み出していくことが期待されています。

活動にあたっては、公益事業の提供主体として、市民に対する様々な責任を負い、活動の成果を常に問われることを自覚する必要があります。

●民間企業の担う役割

経済活動に専念してきた民間企業も、社会環境の変化に伴い、地域社会への貢献活動や、環境に配慮した経営活動を実践する企業が増えてきました。

民間企業は、今後も地域課題の解決をめざした事業展開を行うほか、市民公益活動団体などとパートナーを組むことで、各団体が実践する地域課題への取り組みを支援することが期待されています。

●行政の担う役割

①地域内分権の確立

市民・市民組織・民間企業・行政の協働による「市民力」が、ともに知恵や行動力を最大限に発揮し“豊かさ”生み出す「三豊市型のまちづくり」に取り組むにあたり、その基盤となる地域内分権について、市民・市民組織・民間企業・行政のそれぞれの役割や分権の具体的方法について検討を行い、その確立を図ります。

②地域内分権確立のための組織・人材の育成

地域内分権による「三豊市型まちづくり」をリードできる地域組織や人材の育成に努めます。

また、様々な市民ニーズに対応し、市民とともに地域内分権を担い活躍できる職員の育成を図ります。

③計画に即した行政経営の実践

本計画の施策や事業の「選択と集中」を徹底するとともに、基本目標や施策を着実に達成できる組織体制の確立を図り、本市の将来像「“豊かさ”をみんなで育む市民力都市・三豊」を実現します。

2. 新たな施策評価システムの確立

本市では、将来像の実現に向け、最小の経費で最大の効果を生み出すために三豊市型施策評価システム「PCDCサイクル」を導入し、その確立を図ります。

この「PCDCサイクル」とは、これまで「PDCAサイクル」という、計画（P）→実施（D）→評価（C）→再実行（A）の流れの中において、計画した施策や事業がそのまま実施されてきたものを見直し、計画を実施に移す前に、さらに「評価」を加えることで、計画された施策や事業が「真に市民のニーズをとらえられているのか」、「その市民ニーズは市民力発揮の原動力となるようなものであるか」などのチェックを行い、より高い施策や事業の効果を得ようとするものです。

「市民力」という“情熱”と、この新たな「三豊市型施策評価（PCDC）システム」の持つ“冷静さ”、この2つの側面でまちづくりに取り組み、将来像「“豊かさ”をみんなで育む市民力都市・三豊」を実現します。

三豊市型施策評価システム「PCDCサイクル」

